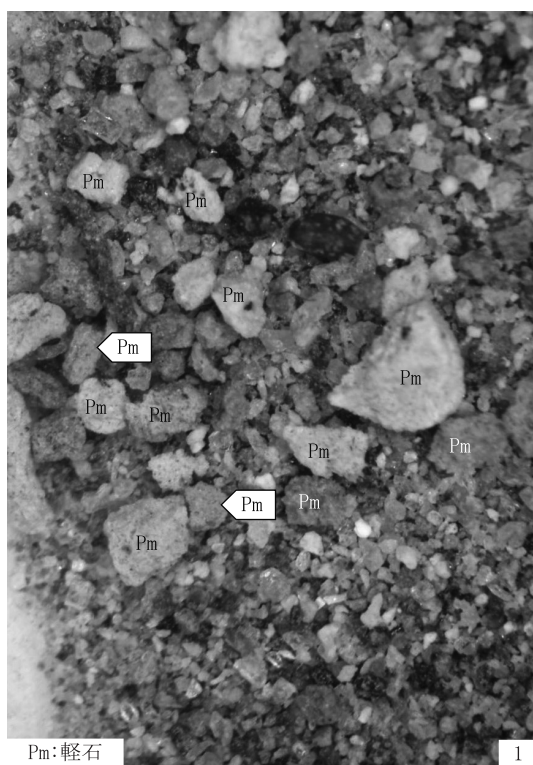




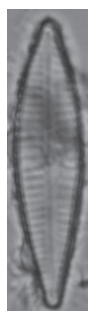
1



2



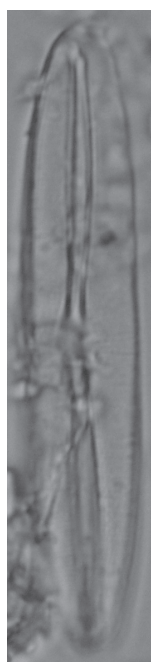
3



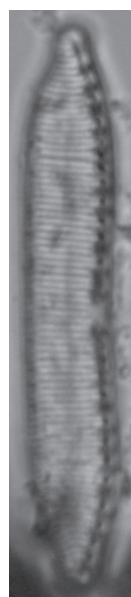
6



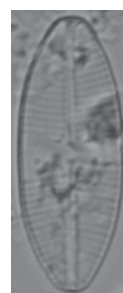
4



5



7



8



11



9



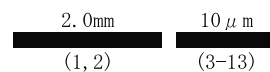
12



10



13



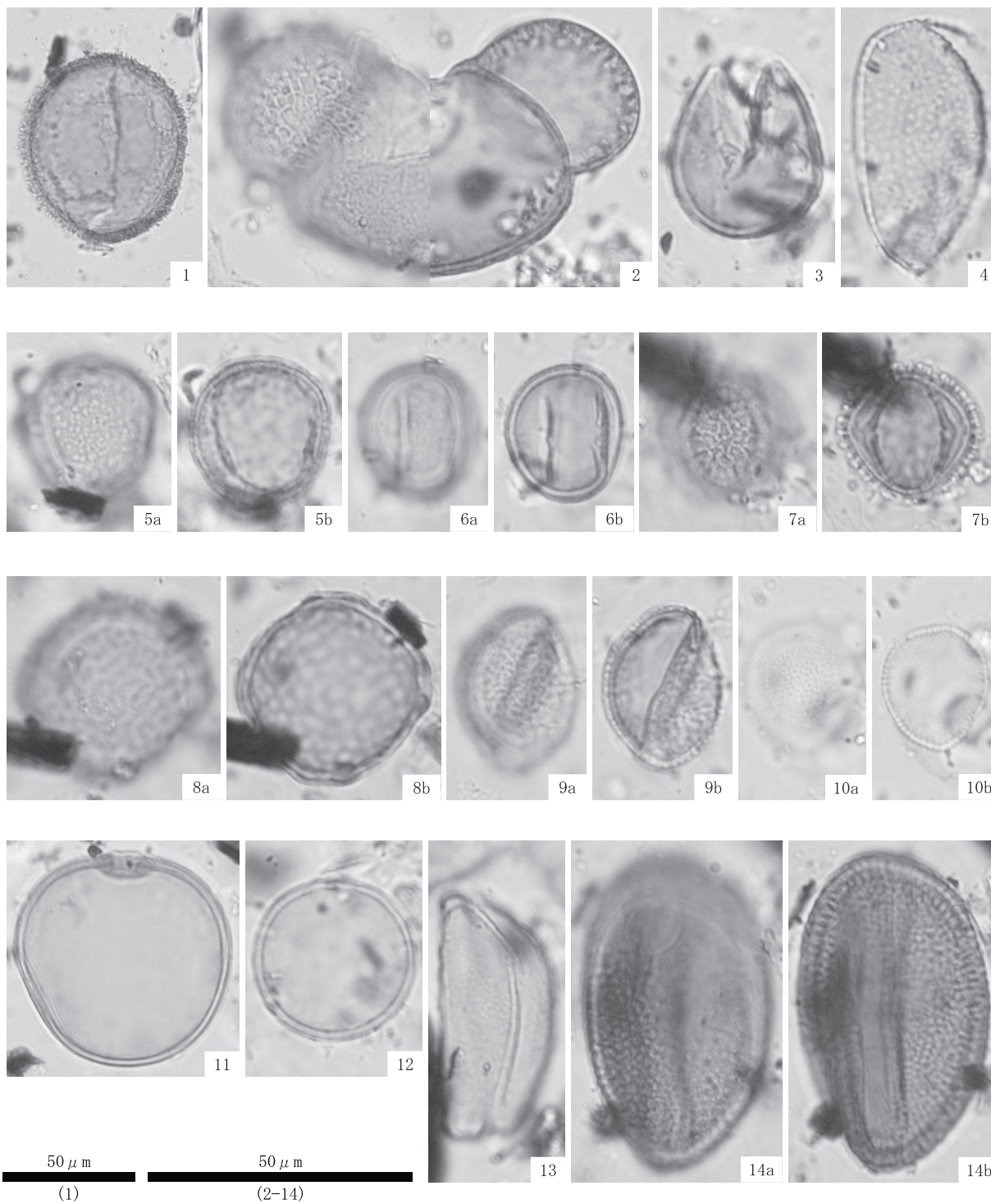
(1, 2)

(3-13)

1. 軽石 (SD52 B地点 試料番号3)
3. *Amphora montana* Krasske (SD52 B地点 試料番号5)
5. *Frustulia vulgaris* (Thwaites) De Toni (SD52 B地点 試料番号5)
7. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (トレンチ1 北壁 試料番号1)
9. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (トレンチ1 北壁 試料番号1)
11. *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow (トレンチ1 北壁 試料番号1)
13. *Nitzschia palea* (Kuetz.) W.Smith (SD52 B地点 試料番号5)

2. 軽石 (基本土層 試料番号2)
4. *Cymbella turgidula* Grunow (トレンチ1 北壁 試料番号1)
6. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (SD52 B地点 試料番号5)
8. *Lemnicola hungarica* (Grun.) Round & Basson (SD52 B地点 試料番号5)
10. *Navicula contenta* Grunow (トレンチ1 北壁 試料番号1)
12. *Nitzschia amphibia* Grunow (トレンチ1 北壁 試料番号1)

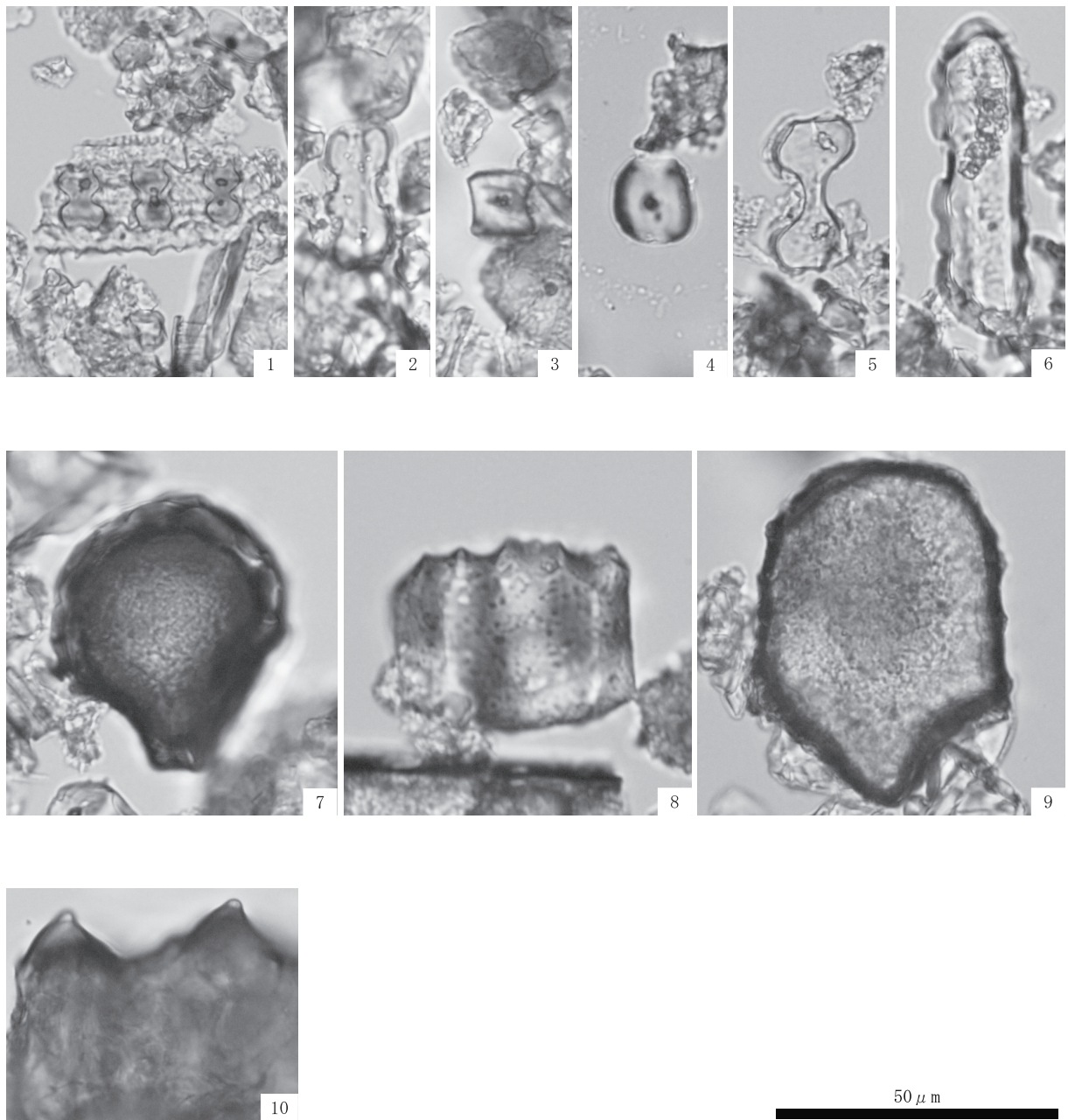
第222図 テフラ・珪藻化石



1. ツガ属 (SD52 B地点 試料番号5)
3. スギ属 (SD52 B地点 試料番号5)
5. コナラ属コナラ亜属 (SD52 B地点 試料番号5)
7. ガマズミ属 (SD52 B地点 試料番号5)
9. ガマ属 (SD52 B地点 試料番号5)
11. イネ科 (イネ属型) (SD52 B地点 試料番号5)
13. ミズアオイ属 (SD52 B地点 試料番号5)

2. マツ属 (SD52 B地点 試料番号5)
4. イボクサ属 (SD52 B地点 試料番号5)
6. コナラ属アカガシ亜属 (SD52 B地点 試料番号5)
8. ニレ属ケヤキ属 (SD52 B地点 試料番号5)
10. ヒルムシロ属 (SD52 B地点 試料番号5)
12. イネ科 (SD52 B地点 試料番号5)
14. ソバ属 (SD52 B地点 試料番号5)

第223図 花粉化石



- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1. イネ属短細胞列 (トレンチ1 北壁 試料番号1) | 2. キビ属短細胞珪酸体 (トレンチ1 北壁 試料番号1) |
| 3. メダケ属短細胞珪酸体 (トレンチ1 北壁 試料番号1) | 4. ヨシ属短細胞珪酸体 (SD52 B地点 試料番号5) |
| 5. ススキ属短細胞珪酸体 (トレンチ1 北壁 試料番号1) | 6. コムギ連短細胞珪酸体 (トレンチ1 北壁 試料番号1) |
| 7. イネ属機動細胞珪酸体 (トレンチ1 北壁 試料番号1) | 8. メダケ属機動細胞珪酸体 (トレンチ1 北壁 試料番号1) |
| 9. ヨシ属機動細胞珪酸体 (SD52 B地点 試料番号5) | 10. イネ属穎珪酸体 (SD52 B地点 試料番号5) |

第224図 植物珪藻体

3 宮東遺跡（第1次調査）の自然科学分析

1 はじめに

本報告では、宮東遺跡の発掘調査で出土した骨の種類や部位に係る資料の作成を目的として、骨同定を実施した。

2 骨同定

(1) 試料

試料は、ST3より出土した骨片である。分析に供された出土骨は、No.1～8、10～13およびNo.なし（2試料）の計14試料からなる。1試料中には複数点の破片が認められる。なお、上述したNo.なしの試料については、「一括1」・「一括2」と仮名を付して扱っている。

(2) 分析方法

出土骨は、乾いたブラシなどを用いて付着した泥を除去する。骨自体に付着した泥は、水に浸けたブラシや竹串などを使用して可能な限り除去し、接合・復元を試みた。クリーニングが終了した試料は、肉眼観察を行い、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、状態が悪く、クリーニングが困難と判断される試料については、土塊状のまま観察を行っている。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

(3) 結果

出土骨はいずれもヒトに同定された。白色～灰色を呈し、表面に細かなひび割れが生じる。確認された部位は、No.3より左第2中手骨近位端・左

大腿骨近位端、No.6より頭頂骨・尺骨の可能性のある破片、No.7より橈骨／尺骨の可能性のある破片、一括1より下顎骨左関節突起・歯根・肋骨・脛骨および腓骨の可能性のある破片、さらに基節骨・末節骨、一括2より右下顎第2小臼歯・椎骨・基節骨・第1末節骨が認められた。種類を特定できる部位がみられない頭蓋骨、肋骨／四肢骨、四肢骨、部位不明破片などは、獣類としている。

(4) まとめ

出土骨は、多数の破片試料からなり、いずれも焼骨の特徴を示す。部位が特定できた骨はいずれもヒトであり、獣類とした骨もおそらくは人骨と推定される。出土部位は、頭蓋、椎骨、上肢、下肢であるが、数量が少なく、また主要部位や大型の破片は検出されないという特徴を示す。以上の特徴から、出土骨は、本遺構で火葬された後に主要部位や大型の破片が集められ他の場所に埋葬された、あるいは火葬された後の残渣が本遺構に廃棄されたことなどが想定される。なお、出土骨には第1小臼歯が検出されていることから小児（6～15歳程度）後半以降と考えられるが、詳細不明である。また、性別に関しても不明である。

第32表 骨同定結果

試料名	種類	部位	左右	部分	数量 (g:重量)	被熱	備考
No.1	獣類	四肢骨		破片	24	○	
No.2	獣類	肋骨/四肢骨		破片	3	○	
No.3	ヒト	不明	左	破片	10	○	
		第2中手骨		遠位端欠	1	○	
		大腿骨		近位端	1	○	
No.4	獣類	四肢骨		破片	2	○	
No.5	獣類	四肢骨		破片	10	○	
	獣類	肋骨/四肢骨		破片	4	○	
	獣類	不明		破片	1	○	
No.6	ヒト	頭頂骨		破片	1	○	
	獣類	尺骨?		近位端?	1	○	
		頭蓋骨		破片	2	○	
		四肢骨		破片	2	○	
No.7	ヒト	不明		破片	10	○	
	獣類	肋骨/尺骨?		破片	1	○	
		不明		破片	9	○	
No.8	獣類	不明		破片	2	○	
		肋骨/四肢骨		破片	57 g	○	
No.10	獣類	四肢骨		破片	1	○	
No.11	獣類	四肢骨		破片	1	○	
No.12	獣類	不明		破片	2	○	
No.13	獣類	不明		破片	1	○	
一括1	ヒト	頭蓋骨	左	破片	1	○	
		下顎骨		関節突起	1	○	
		歯根		破片	1	○	
		肋骨		破片	1	○	
		脛骨		破片	1	○	
		腓骨?		破片	1	○	
		基節骨		破片	1	○	
		末節骨		遠位端欠	1	○	
		四肢骨		ほぼ完存	1	○	
	獣類	不明		破片	4	○	
	炭化物 土器			破片	74 g	○	
				破片	24	○	
				破片	5	○	
一括2	ヒト	下顎第2小臼歯	右	破片	1	○	
		椎骨		破片	1	○	
		基節骨		ほぼ完存	1	○	
		第1末節骨		破損	1	○	
	獣類 土器 礫	不明		破片	28	○	
				破片	2	○	
				破片	1	○	

第31表 検出分類群一覧

脊椎動物門	Phylum Vertebrata
哺乳綱	Class Mammalia
サル目(霊長目)	Order Primates
ヒト科	Family Hominidae
ヒト	Homo sapiens



- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. ヒト 頭頂骨 (ST3;No.6) | 2. ヒト 左下顎骨 (ST3;一括1) |
| 3. ヒト 右下顎第2小白歯 (ST3;一括2) | 4. ヒト 歯牙歯根 (ST3;一括1) |
| 5. ヒト 椎骨 (ST3;一括2) | 6. ヒト 肋骨 (ST3;一括1) |
| 7. ヒト 左第2中手骨 (ST3;No.3) | 8. ヒト 尺骨? (ST3;No.6) |
| 9. ヒト 橈骨/尺骨? (ST3;No.7) | 10. ヒト 左大腿骨 (ST3;No.3) |
| 11. ヒト 脛骨 (ST3;一括1) | 12. ヒト 腓骨? (ST3;一括1) |
| 13. ヒト 基節骨 (ST3;一括1) | 14. ヒト 基節骨 (ST3;一括2) |
| 15. ヒト 第1末節骨 (ST3;一括2) | 16. ヒト 末節骨 (ST3;一括1) |

第225図 出土骨

4 宮東遺跡（第2次調査）の自然科学分析

1 はじめに

本報告では、井戸跡から出土した木製品の年代や樹種、古植生の検討を目的として、自然科学分析を実施した。

2 放射性炭素年代測定

(1) 試料

試料は、S K126、S E12より出土した中世の所産と推定される漆器碗2点である。測定試料は、漆器碗の木地に残存する年輪外側に相当すると考えられる箇所より採取した木片である。

(2) 分析方法

試料に土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄等により物理的に除去する。その後H C 1による炭酸塩等酸可溶成分の除去、N a O Hによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、H C 1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1 gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1 mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3 MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（N I S T）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試

料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（B P）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and P J Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表するのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ （ σ は統計的に真の値が68%、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(3) 結果およびまとめ

漆器碗の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、S K126 が270±20yrBP、S E12が880±20yrBPを示す。また、補正年代に基づく暦年較正結果（ σ ）は、S K126 がcalAD 1530 - calAD 1660、S E12がcalAD1159 - calAD 1210である（第33表）。

以上の結果を参考とすると、漆器碗の較正暦年代はS K126が16世紀前半から17世紀中頃、S E

12が12世紀中頃から13世紀初頭頃に相当する。なお、今回の結果は漆器椀の木地に残存する年輪外側の形成年代に相当するため、井戸跡の構築年代や漆器椀の製作（使用）年代の評価については、この他の出土遺物の年代観との比較や井戸施設材などを対象とした放射性炭素年代測定による検討も重要と考える。

第33表 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果								相対比	測定機関 CodeNo.
				σ	cal AD 1,530	-	cal AD 1,538	cal BP 420	-	412	0.137		
SK126 漆器椀 木地(コナラ節)	270 $\pm$ 20	-28.81 $\pm$ 0.43	270 $\pm$ 21	2σ	cal AD 1,635	-	cal AD 1,660	cal BP 315	-	290	0.863	IAAA-130338	
					cal AD 1,523	-	cal AD 1,571	cal BP 427	-	379	0.308		
					cal AD 1,630	-	cal AD 1,665	cal BP 320	-	285	0.664		
					cal AD 1,784	-	cal AD 1,795	cal BP 166	-	155	0.027		
SE12 漆器椀 木地(ケヤキ)	880 $\pm$ 20	-28.79 $\pm$ 0.44	875 $\pm$ 22	2σ	cal AD 1,159	-	cal AD 1,210	cal BP	-	740	1.000	IAAA-130339	
					cal AD 1,049	-	cal AD 1,084	cal BP 901	-	866	0.150		
					cal AD 1,123	-	cal AD 1,137	cal BP 827	-	813	0.034		
					cal AD 1,151	-	cal AD 1,219	cal BP 799	-	731	0.816		

(2) 分析方法

試料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口（横断面）・柂目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

第34表 樹種同定結果

遺構	層位	器種	木取り	種類 (分類群)	備考
SK126	2層	漆器椀	横木板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節*	内・外：黒地＋赤漆絵
SE12		漆器椀	横木地柂目	ケヤキ*	内・外：黒地＋赤漆絵
SE94		連歯下駄	板目	ネムノキ	

*放射性炭素年代測定試料

3 木製品の樹種

(1) 試料

試料は、I. 放射性炭素年代測定の対象とされた漆器椀2点（SK126、SE12）と、SE94より出土した連歯下駄1点の計3点である（第34表）。

(3) 結果

同定結果を第34表に示す。木製品は、広葉樹3分類群（コナラ属コナラ亜属コナラ節、ケヤキ、ネムノキ）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*）ブナ科

環孔材で、孔圈部は1－3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1－20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ケヤキ（*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino）ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1－6細胞幅、1－50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ネムノキ (*Albizia julibrissin* Durazz.)
マメ科ネムノキ属

環孔材で、孔圏部は3－5列、孔圏外で径を減じた後、年輪界に向かって単独または2個が複合して径を漸減させながら配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1－3細胞幅、1－30細胞高。柔組織は周囲状で晩材部ではやや翼状となる。

(4) まとめ

井戸跡より出土した下駄および漆器椀の樹種同定の結果、コナラ節、ケヤキおよびネムノキの広葉樹3分類群が確認された。これらの分類群は、いずれも重硬で強度が高く、ケヤキでは耐朽性も高い。

下駄は、台と歯を一木で作り出す連歯下駄で、台表が板目となる。なお、前歯の前方に鼻緒孔があるが、節に当たるため孔が歪な形状を呈するほか、後部には釘孔のような穿孔がみられる。本資料は、ネムノキが利用されることから、硬く丈夫な木材の利用が推定される。

埼玉県内における中世・近世の下駄の樹種を明らかにした事例は、石御堂遺跡（川口市）、小沼耕地遺跡・私市城武家屋敷跡（旧騎西町）、お伊勢山遺跡（所沢市）などの計8例がある（伊東・山田、2012）。樹種は針葉樹のスギ、ネズコ、広葉樹のクリ、モクレン属、トチノキからなり、軽軟な樹種が多いものの重硬なクリが混じるなど、下駄に利用される木材の材質は多様である。なお、

本分析で確認されたネムノキは、埼玉県内での事例は確認できないものの静岡県などの他地域で報告例があり、下駄材として利用されていたことが窺える（伊東・山田、2012）。

漆器椀は、SE12が横木地柁目取で内外共に黒地に赤漆絵が認められる資料、SK126が横木地板目取で内外共に黒地に赤漆絵が認められる資料であり、樹種はSE12がケヤキ、SK126がコナラ節であった。漆器椀はブナ属やトチノキなどの散孔材で加工が容易な樹種が利用されることが多いが、今回の資料はいずれも環孔材で比較的強度の高い木材が利用されるという特徴が指摘される。埼玉県内における漆器椀・皿の調査事例では、ケヤキはお伊勢山遺跡や下田町遺跡（旧大里町）などの中世の資料に比較的多く見られる。コナラ節は、これまでのところ県内で確認された事例はないものの、東京都や愛知県の近世の資料などに認められている（伊東・山田、2012）。

4 花粉分析

(1) 試料

試料は、SE94、SE95、SK126より採取された土壌3点である。各試料の岩相は、SE94が暗灰色砂質シルト、SE95層が植物遺体の混じる暗灰色砂質シルト、SK126が暗灰色砂質シルトからなる。

(2) 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数

する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980a）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。表中で複数の種類を一で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

（3）結果

結果を第35表に示す。花粉化石の産出状況はいずれも悪く、ほとんどが花粉外膜が破損あるいは溶解するなど保存状態も不良である。

SE94 およびSK126は、スギ属、ニレ属ーケヤキ属などの木本花粉、イネ科、アカザ科、キク亜科などの草本花粉が、1～数個体検出される程度である。

SE95は、他の2試料と比較すると花粉化石の産出が多く、保存状態もやや良好であるが、定量解析を行えるほどではない。検出された花粉化石は、草本花粉が主体で、イネ科、アカザ科が比較的多く、クワ科、イブキトラノオ節、ヨモギ属などを伴う。木本花粉は、ツガ属、マツ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属が1～数個体検出される程度である。なお、比較的多く検出されたイネ科花粉中には、栽培種のイネ属に類する形態を示す個体（イネ属型）も確認された。

（4）まとめ

花粉分析の結果、いずれの試料も花粉化石の産出および保存状態は悪かった。なお、花粉化石が常に酸化状態に置かれている場所では、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている（中村、1967；徳永・山内、1971；三宅・中越、1998など）。そのため、埋積物の母材となった堆積物が好氣的環境下に曝されていた可能性や、埋積する際に取り込まれる花粉量が少なかったことなどが想定される。また、検出された花粉化石の保存状態から、堆積後の経年変化による影響も考えられる。

第35表 花粉分析結果

分類群	SE94 2層	SE95 3層	SK126
木本花粉			
ツガ属	-	1	-
マツ属単維管束亜属	-	1	-
マツ属複維管束亜属	-	6	-
スギ属	-	1	1
コナラ属コナラ亜属	-	1	-
コナラ属アカガシ亜属	-	1	-
ニレ属ーケヤキ属	1	-	-
草本花粉			
イネ科	2	50	5
カヤツリグサ科	-	1	-
クワ科	-	2	-
イブキトラノオ節	-	2	-
サナエタデ節ーウナギツカミ節	-	1	-
アカザ科	1	25	-
ナデシコ科	-	1	-
カラマツソウ属	-	1	-
セリ科	-	1	-
ヨモギ属	-	4	-
キク亜科	-	-	1
不明花粉			
不明花粉	-	8	1
シダ類胞子			
シダ類胞子	3	12	6
合 計			
木本花粉	1	11	1
草本花粉	3	88	6
不明花粉	0	8	1
シダ類胞子	3	12	6
合計(不明を除く)	7	111	13

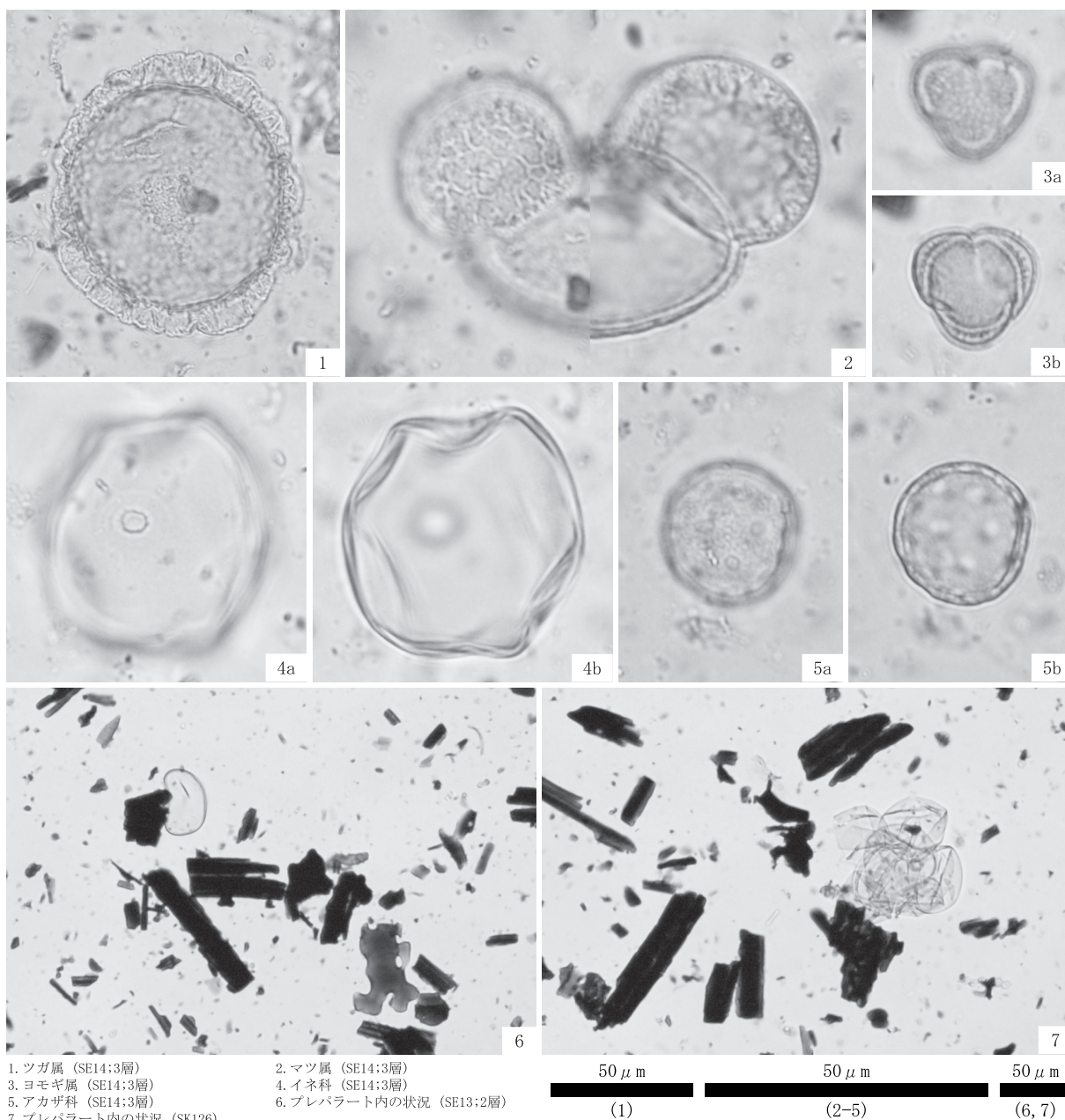
各試料より検出された花粉化石のうち木本類についてみると、マツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属は周辺の二次林などに、ニレ属ーケヤキ属は周辺河川沿いに、コナラ属アカガシ亜属等は低地～台地の比較的安定した場所に、それぞれ生育していた可能性がある。また、マツ属単維管束亜属、ツガ属、スギ属は周辺には自生していない分類群であることや風媒花であることから、周囲の山地等の森林植生に由来する可能性がある。

一方、草本類では、イネ科、アカザ科が多く産出し、この他にクワ科、イブキトラノオ節、ヨモギ属などが認められた。これらは、いずれも開けた明るい場所に生育する人里植物を含む分類群であることから、遺構および遺跡周辺の草地植生に由来すると考えられる。なお、クワ科については、

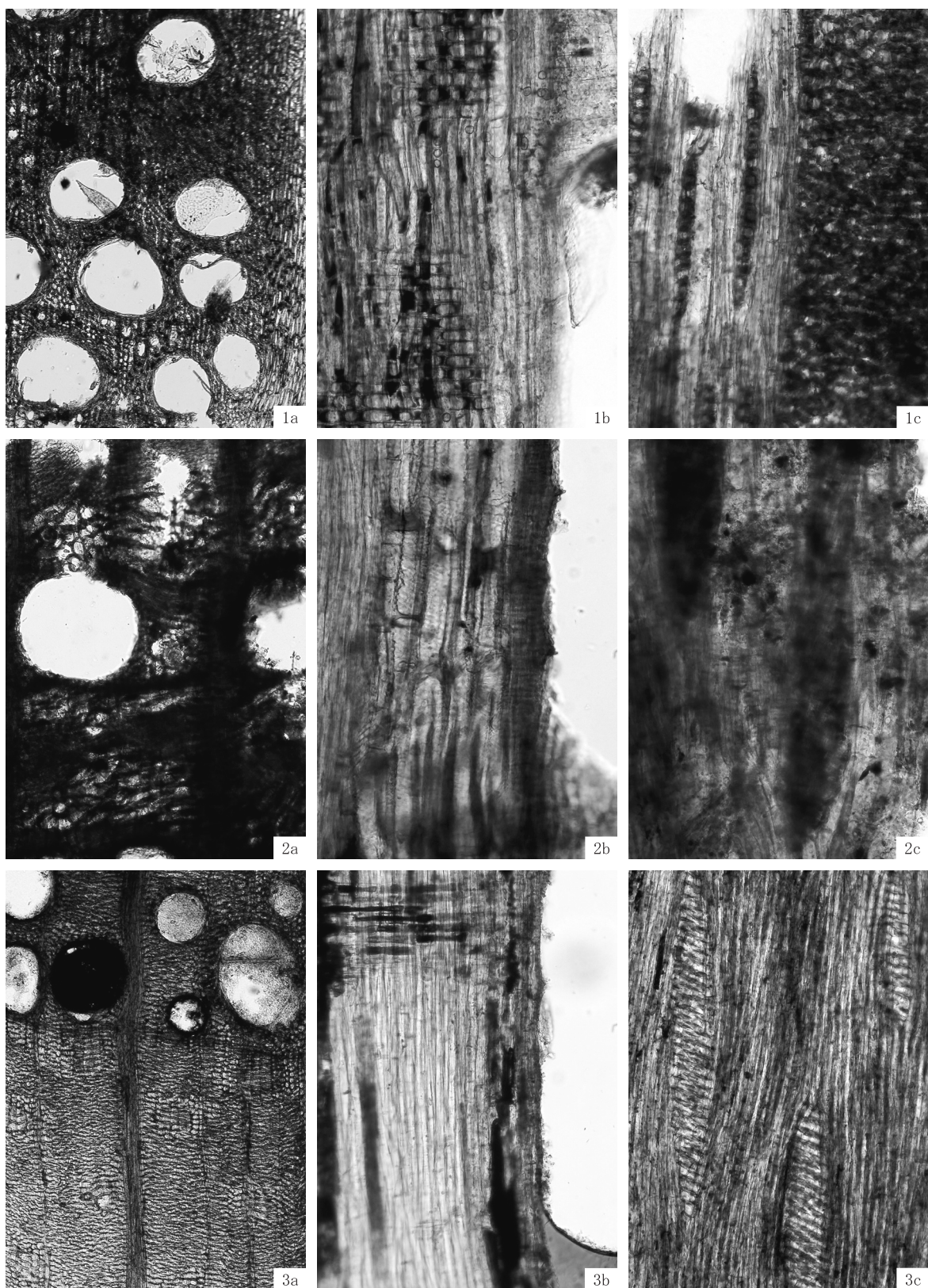
落葉高木のクワ属も含まれるため、ニレ属―ケヤキ属と共に河畔林に由来する可能性もある。

また、比較的多く認められたイネ科花粉には、栽培種のイネ属型花粉が認められた。この結果から、埋積物の形成時期における周辺域での稲作が推定される。当該期における周辺域での栽培利用が指摘される。なお、井戸埋積物の分析調査では、食料残渣とみられる大型植物化石が検出される事例があり、イネを含む穀類などが確認される事例

も認められる。イネの花粉は、生産される花粉の1/4がもみ殻内に残留することも知られている（中村、1980b）ことから、本分析で確認されたイネ属型花粉は埋積物中に混じるもみ殻に由来する可能性も考えられる。今回の分析結果により推定されるイネの栽培・利用の評価は、遺跡内の堆積層および埋積物における植物珪藻体や大型植物化石の産状の検討が期待される。



第226図 花粉化石



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (SK126;漆器椀)
 2. ケヤキ (SE12;漆器椀)
 3. ネムノキ (SE94;連菌下駄)
 a: 木口, b: 柃目, c: 板目

100 μ m: a
 100 μ m: b, c

第227図 木材

5 宮東遺跡（第2次調査）の自然科学分析

1 はじめに

本報告では、出土人骨の性別・年齢などの検討を目的として自然科学分析を実施した。

2 骨同定

(1) 試料

試料は、ST4より出土した人骨である。試料の詳細は結果とともに第36表に示したので参照されたい。

(2) 分析方法

今回の分析に供された試料は、脆弱で破片となった試料が多く、また固結した土砂が付着するなど、保存状態が極めて悪かった、そのため、クリーニングにより試料を破損する恐れが想定されたことから、クリーニングを行わず、土塊の状態で同定を実地した。なお、計測には、デジタルノギスを用いている。

(3) 結果およびまとめ

出土人骨の歯式を第36表に示す。ST4より出土した人骨は、頭蓋（第228図-No.1）を除いた多くの試料で、本来の形状を留めておらず、形態から部位を同定できたものは左肩肩甲骨（No.5）のみである。それ以外の試料では、上腕骨（No.3）、橈骨・尺骨（No.4）、肋骨の可能性ある破片がみられたが、これらについては出土位置の確認などを含めた検討を要する。さらに、この他の試料は保存状態が極めて悪く形質から部位の推定には至らなかった。

なお、形状が比較的保存された頭蓋の観察では、土厚を受けて変形するものの、外後頭骨隆起が顕著に発達する状況が認められた。このような特徴から、本人骨は男性と判断される。また、年齢については、第3大臼歯が認められなかったものの、右上顎第1・2大臼歯および左・右下顎第1大臼歯の咬耗状況から壮年（20～39歳）以降と推定される。

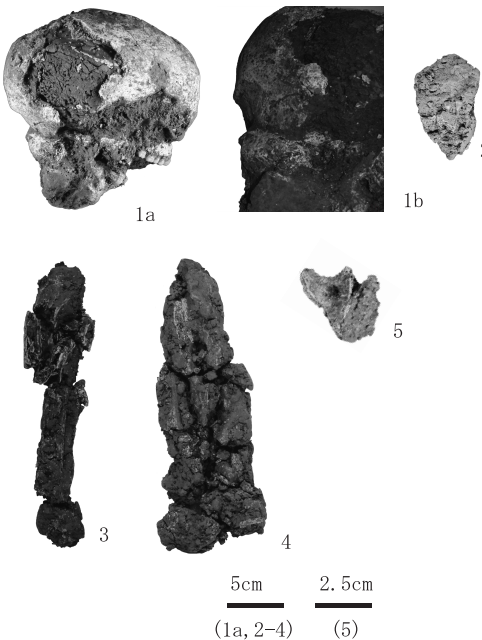
第36表 歯式および計算値

		右							
		M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1
上顎	歯冠幅		◎	◎	◎	◎	◎		○
	歯冠厚		10.2±	10.4±	6.4±	7.1±	7.8±		8.93
			—	—	—	—	—		7.82
下顎	歯冠幅			◎	◎	◎	◎		○
	歯冠厚			10.53	6.5±	6.5±	7.6±		5.78
				10.29	—	—	—		6.33

		左							
		I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
上顎	歯冠幅	○			◎	◎			
	歯冠厚	9.08			—	—			
		7.35			—	—			
下顎	歯冠幅	◎	◎		◎	◎	◎		
	歯冠厚	5.39	6.12		6.8±	—	—		
		—	—		—	—	—		

< 凡例 >

I: 切歯, C: 犬歯, P: 小臼歯, M: 大臼歯, ◎: 植立歯牙, ○: 遊離歯牙。



1. ヒト 頭蓋 (ST4)
 1a; 全体像 1b; 外後頭骨隆起部分拡大
 2. ヒト 左下顎骨 (ST4)
 3. ヒト 上腕骨? (ST4)
 4. ヒト 橈骨・尺骨? (ST4)
 5. ヒト 左肩甲骨 (ST4)

第228図 出土人骨

引用文献

- 新井房夫 1979 「関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層」『考古学ジャーナル』
- 伊東隆夫 1995 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ』木材研究・資料31 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1996 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ』木材研究・資料32 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1997 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ』木材研究・資料33 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1998 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ』木材研究・資料34 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ』木材研究・資料35 京都大学木質科学研究所
- 伊藤良永・堀内誠示 1989 「古環境解析からみた陸生珪藻の検討－陸生珪藻の細分－」『日本珪藻学会第10回大会講演要旨集』17
- 伊藤良永・堀内誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『日本珪藻学誌』6
- 小林 弘他 2006 『珪藻図鑑』第1巻 株式会社内田老鶴圃
- 近藤鍊三 2010 『プラント・オパール図譜』北海道大学出版会
- 坂口 一 1993 「火山噴火の年代と季節の推定法」『火山灰考古学』古今書院
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』地球社
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集
- 下司信夫・大石雅之 2011 「榛名火山の後期更新世及び完新世噴出物から得られた炭素14年代」『地質調査研究報』62
- 杉山真二 2000 「植物珪酸体（プラント・オパール）」『考古学と自然科学』3 考古学と植物学 同成社
- 早田 勉 1989 「六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害第」『四紀研究』27
- 田中正明 2002 『日本淡水産動物植物プランクトン図鑑』名古屋大学出版会 584p
- 辻誠一郎他1986 『館林の池沼群と環境の変遷史』文化財総合調査 茂林寺沼及び低地湿原調査報告書第2集 館林市教育委員会
- 徳永重元・山内輝子 1971 『花粉・孢子化石の研究法』共立出版株式会社
- 中村賢太他2008 「ウィグルマッチング法による榛名渋川噴火の年代決定（再検討）」『日本第四紀学会講演要旨集』38
- 中村 純 1967 『花粉分析』古今書院
- 中村 純 1980a 『日本産花粉の標徴ⅠⅡ（図版）』大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集
- 中村 純 1980b 『花粉分析による稲作史の研究 自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究 一総括報告書一』文部省科研費特定研究「古文化財」総括班
- 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
- 藤木利之・小澤智生 2007 『琉球列島産植物花粉図鑑』アクアコーラル企画
- 古澤 明 1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌』101
- 町田 洋・新井房夫 2003 『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会
- 三宅 尚・中越信和 1998 「森林土壌に堆積した花粉・孢子の保存状態」『植生史研究』6
- 三好教夫他 2011 『日本産花粉図鑑』北海道大学出版会
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩（日本語版監修）海青社 [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E., 1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]
- Asai, K. & Watanabe, T. 1995 Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47
- Desikachary, T. V. 1987 Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras, Printed at T. T. Maps & Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044. 1-13, Plates: 401-621
- Horst Lange-Bertalot. 2000 ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA: Annotated diatom micrographs. Witkowski, A.

- Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin: Diatom Flora of Marine Coasts Volume 1. 219 925p
- Hustedt, F. 1930 Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1 920p
- Hustedt, F. 1937-1938 Systematische und ökologische Untersuchungen mit der Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I - III. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809, 1-155, 274-349
- Hustedt, F. 1959 Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2 845p
- Hustedt, F. 1961-1966 Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3 816p
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot 1985 Naviculaceae. Bibliotheca Diatomologica, vol. 9 250p
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1986 Bacillariophyceae, Süßwasser flora von Mitteleuropa, 2(1) 876p
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot 1988 Bacillariophyceae, Süßwasser flora von Mitteleuropa, 2(2) 596p
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot 1990 Bacillariophyceae, Süßwasser flora von Mitteleuropa. 2(3) 576p
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot 1991 Bacillariophyceae, Süßwasser flora von Mitteleuropa, 2(4) 437p

VII 調査のまとめ

宮西遺跡・宮東遺跡は、古墳時代から近世までの遺構が検出された遺跡である。本書では、中世から近世までの遺構について報告した。

宮西遺跡では、井戸跡、溝跡、土壇、性格不明遺構、ピットが検出された。主体となる遺構は井戸跡である。

井戸跡は、調査区全体に広く分布しており、互いに近接しているほか、一部では重複も認められる。調査区の地盤は軟弱であり、地形的に崩落が起りやすかったものと推察した。崩落した井戸の近くに新たな井戸の繰り返し掘削した結果、このような状況が生じたものと考えたい。

断面形態の特徴としては、箱形や逆台形の掘り込みの中央に井筒を設ける2段のものが多く点あげられる。わずかに、井戸枠とおもわれる痕跡が確認できたものの、多くが素掘りの井戸であった。

宮東遺跡では、杭列、井戸跡、溝跡、土壇、墓跡、畠跡、ピットが検出された。

遺構の分布には濃淡が認められ、最も遺構が集中するのは、調査区西端部である。調査区の東側に行くにつれて、遺構の分布は薄くなる傾向が認められる。

主体となる遺構は、宮西遺跡と同様に井戸跡である。井戸跡は、宮西遺跡ほどは重複しないものの、近接して位置している。

断面形態は、広い掘り込みから、中央に設けられた井筒に向かって径が減少する。宮西遺跡と同様に、多くが素掘りの井戸跡であった。

また、D～F-5、E～G-6グリッド周辺には、南北方向を主軸とする長方形の土壇が多く分布する。これらの土壇は、周辺に分布する井戸跡や溝跡との重複が認められないことから、これらの遺構と同時期に形成されたものと考えられるが、出土遺物が少なく詳細な時期は不明であった。これらの土壇の分布域には、第1・2号墓跡が分布している。第1・2号墓跡も主軸を南北方向としており、土壇と墓跡は関連する遺構の可能性があ

る点を指摘しておきたい。

出土遺物は、主要な遺構について、非掲載遺物も含めた種別ごとの総数を第 表に示した。

遺構の時期と分布状況について

次に、遺構の時期について確認しておきたい。遺物が出土した遺構について、以下の8時期に大別し整理した。

I 期（13世紀以前）

宮西遺跡 SE41、SD33、SK7

II 期（13世紀から14世紀初頭まで）

宮西遺跡

SE7、9、29、42、53、54、65、68、47、125、SD47、SK21、29、45、141、142、138

宮東遺跡

SE12、116

III 期（14世紀前葉から15世紀初頭まで）

宮西遺跡

SE13、25、80、SD40

宮東遺跡

SE16、28、42、70、84、94、SK150

IV 期（15世紀前葉から15世紀後葉まで）

宮西遺跡

SE1、8、23、30、31、32、43、40、59、69、72、SD22、38、43、51、52、SK40

宮東遺跡

SE3、101、SD47、SK122、146、102

V 期（16世紀代）

宮西遺跡

SE74、SD41

宮東遺跡

SE64、SD45

VI 期（17世紀代）

宮西遺跡SK121

宮東遺跡

SE13、43、97、107、SD15、17、46、48、50

VII 期（18世紀代）

宮西遺跡

S E 88、128、126、154、S D 44

宮東遺跡

S E 124、126、S D 43、73、80、81、89、S K 196、316

VIII期（19世紀代）

宮西遺跡

S E 81、S D 46、S K 135、S X 1

宮東遺跡

S E 117、118、119、122、S D 1、18、52、69、70、74、75、77、S K 192、202、207

時期ごとの遺構の分布状況を確認してみると、I期の遺構は、両遺跡ともに少数である。遺構が増加するのはII期からであり、宮東遺跡に先行して、宮西遺跡において主に井戸が掘削されている。

III期においては、両遺跡で大きな差は認められないが、IV期になると、ふたたび宮西遺跡における井戸の増加が認められた。V期では、両遺跡とも遺構は少ない。

II～IV期の井戸跡は、主に、宮西遺跡のグリッドのCラインからHラインの間にまとまって分布している。ここは、時期不明とした井戸跡が集中する地区であり、これらの井戸跡についても、II～IV期のいずれかに属する可能性が高いものと考えられる。

VI期になると、遺構の分布の主体は、宮東遺跡へと推移する様相がうかがわれ、VII期・VIII期においても同様である。

これまでは、主体となる遺構は井戸跡であった。しかし、VIII期においては溝跡が増加する傾向にある。特に、宮東遺跡、第73・74号溝跡では、ごく浅く細い溝でありながら、極めて多量の近世陶磁器類や、焙烙などが溝跡中央部に集中して出土しており、特徴的である。

以上のように、宮西・宮東遺跡では、分布する遺構の時期に差が認められた。

分布状況についてまとめると、宮西遺跡のIグ

リッドを境界として、西側に中世の遺構、グリッドの東側から宮東遺跡にかけては近世の遺構が主体的に分布する。

以上のように、中世から近世にかけて、両遺跡の土地利用には時期差が認められることが明らかとなった。

また、分布する遺構は、一部に墓跡が認められるものの、多くが井戸跡、溝跡、土壇など生活にかかわる遺構であり、当該地が中世から近世にかけても、集落域として機能していたものと推察した。

板碑の出土した井戸について

宮西遺跡の、第25・57・65・74・80号井戸跡、宮東遺跡の、第40・42・61・64・68・70号井戸跡からは、板碑が出土した。主に板碑は、単独で出土しており、時期を示す遺物を伴うものは認められなかった。そのため、遺構の時期は板碑の紀年銘以降と決定した。

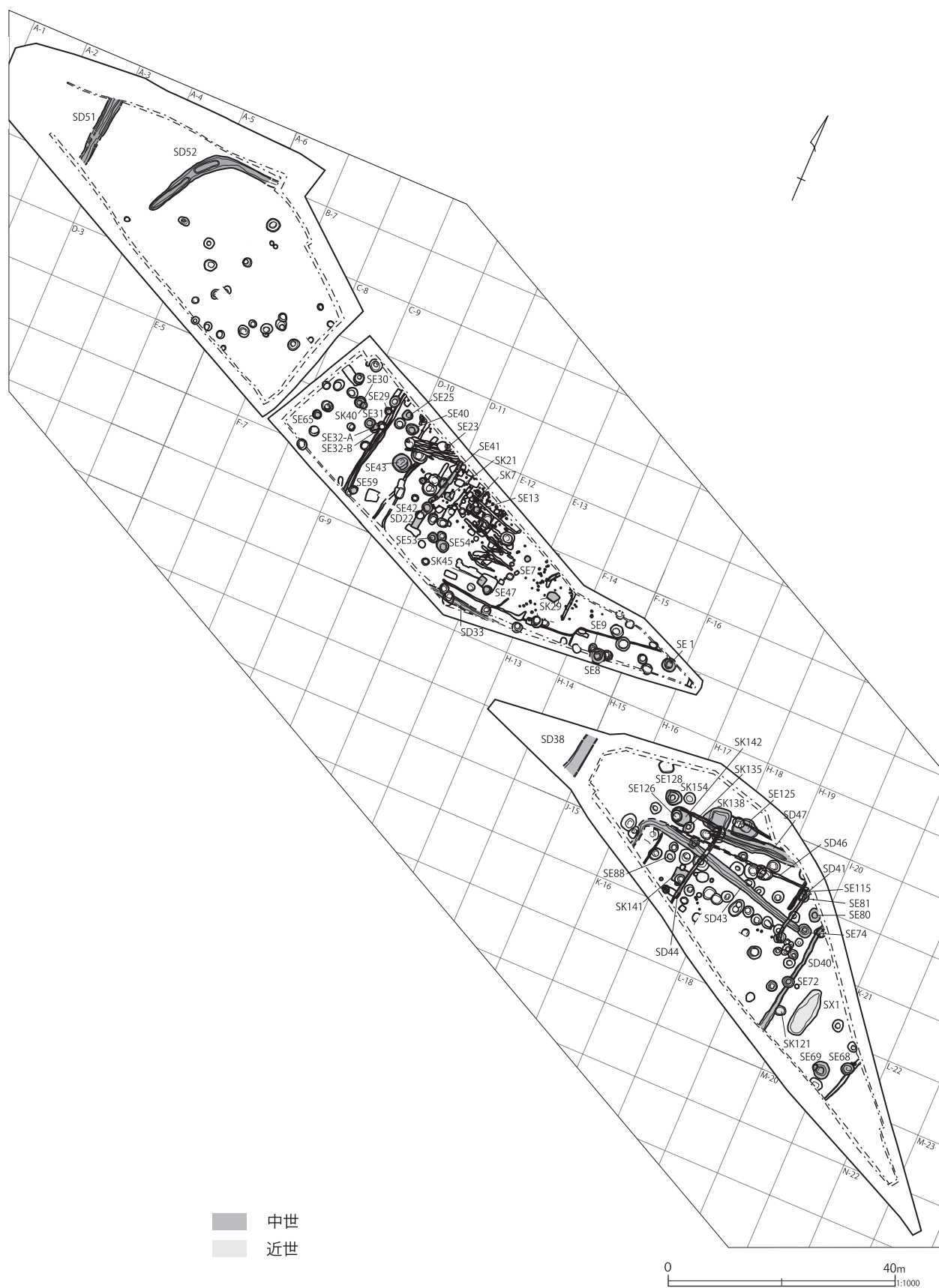
ただし、宮西遺跡の第80号井戸跡からは、3基の板碑が出土した。板碑のほかに、瓦質土器の甕の小破片と、木製の農具（鋤か）が出土しているが、これらの時期は、不明である。

板碑は、いずれも紀年銘が確認でき、正和二年（1313）、応永二八年（1421）、正慶元年（1333）であった。出土状況から、板碑は一括して井戸内に投棄されたものと考えられるが、紀年銘にはおよそ100年の開きがある点が留意される。

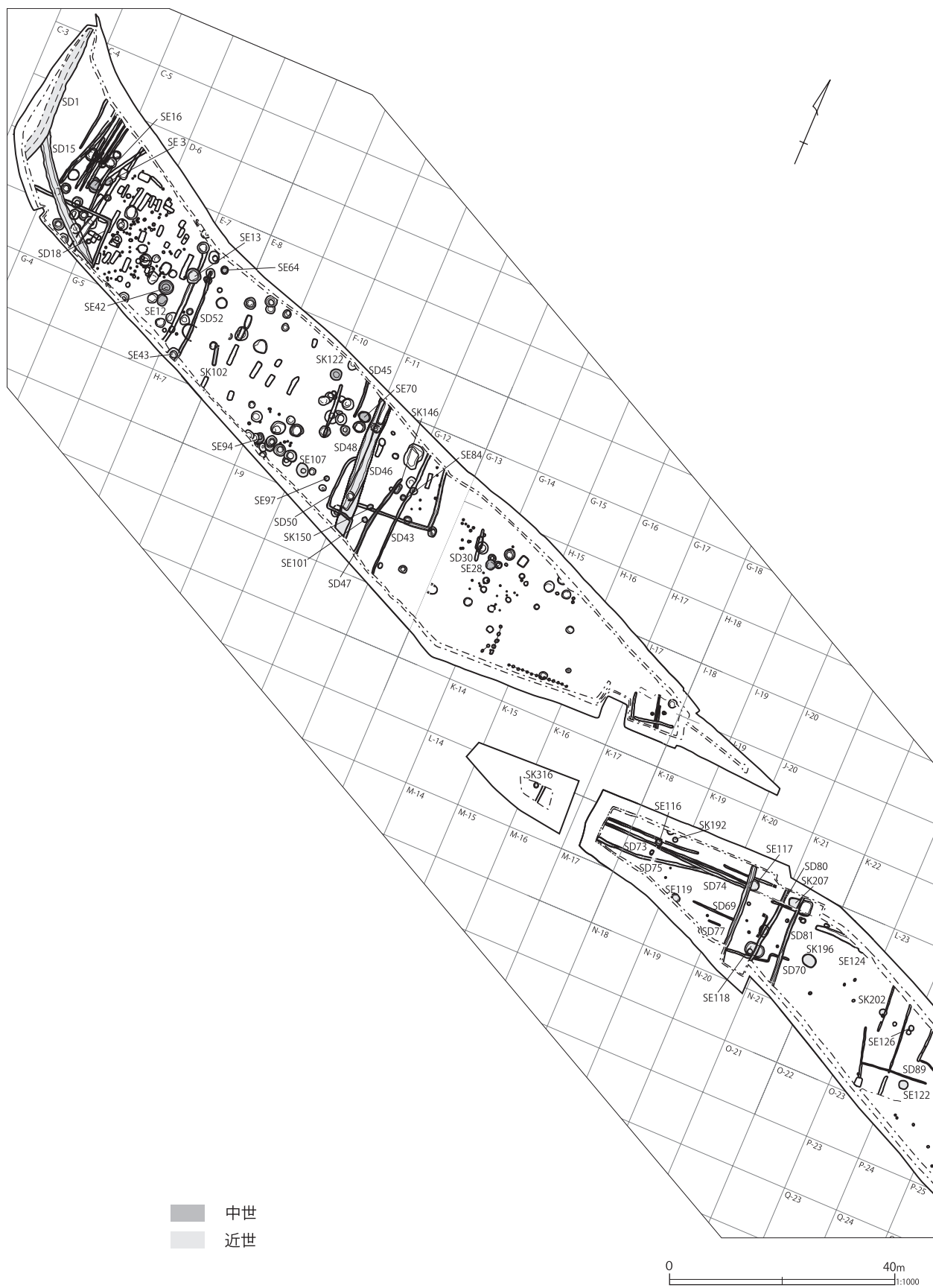
また、先述のとおり、宮西・宮東遺跡は主に集落域として機能していたことがうかがわれ、わずかに検出された墓跡についても、板碑を伴うものではなかった。

このことから、井戸に投棄された板碑は、いずれも遺跡外の墓域より持ち込まれたものと考えられる。

宮西遺跡の西側に位置する、旧利根川堤防跡においても、宮西・宮東遺跡と同様に、周辺から持ち込まれたと思われる板碑が井戸内に投棄された状況が確認されている。このような状況から、周辺には、板碑を伴う墓域が存在すると想定した。



第229図 時期別の遺構分布（1）



第230図 時期別の遺構分布（2）

第37表 遺構ごとの遺物総数一覧表

遺構名	青磁	白磁	古瀬戸	大窯	常滑	山茶碗系	渥美	内耳土器	瓦質土器	焙烙	かわらけ	その他	遺構名	青磁	白磁	古瀬戸	大窯	常滑	山茶碗系	渥美	内耳土器	瓦質土器	焙烙	かわらけ	その他
宮西遺跡													SE122								1				
SE1			2		4			11	14	7	2	瓦1	SE123					1							
SE2								1					SE124					3				2			
SE4								1					SE125					21				2			
SE5					2								SE126			1		3					1		近世9
SE7			1										SE127			1						1			
SE8	1		2		2			1				近代1	SE128										5		瓦1 近世1
SE9	1				1								SE129					2							
SE10											3		SE130					1							
SE11		1			4	1			3		2		SE135											1	
SE13	1		1			1							SE142					1							
SE14					2								SE144								3	1			
SE15					1								SE146			1						1			
SE21									2				SE149			2						2	2		
SE22								2					SE152							1	1		2		
SE23			1		1			9	5				SE156							1					
SE24									2				SD5							1					
SE25					1			1					SD14					1				1			瓦2 近世1
SE26					1								SD22			1		1			3	1	1		近世1
SE28			1		3				4				SD33					25				1	1		
SE29	2							1			2		SD40					4			5	4		4	
SE30	1		1		2			4	2				SD43		1			10			9	6	2	2	
SE32			2			1							SD44					3			2	9	11		志野1 瓦1 近世1
SE33											1		SD46					1			2			1	近世1
SE35					1			3					SD47					12			20	10		1	
SE36								3	2			瓦1	SD51		1	2		2			2	3		1	
SE38								4			1		SD52			2		8			4	8	1	4	備前3
SE39					1			7	1				SK11	1										1	
SE40	1		4		4			8	1		1		SK17					1							
SE41		1			1						1		SK21	1		1		1						1	
SE42						1							SK29					1							
SE43	1	1	9		10			20	6		2		SK34									1			
SE47					2								SK40	1		2		3					1		
SE50									1				SK45					1							
SE53					2				2		1		SK53									1			
SE54	1				3								SK121							1			4		志野1 瓦1
SE59			1		2			6	2				SK132					1						1	
SE60					1			14	4	7	11		SK133					5						1	
SE65					1			7		1	8		SK135			3		3			2		29	3	瓦1 近世10
SE68			1		3	1			3		2		SK138	1				11				1		2	瓦3 近世1
SE69			1		9		1		8				SK141					7				1		1	
SE70									1				SK142			1					1				
SE71					2			1			1		SK27					1							
SE72			1										SK151					1			1	1			
SE74			1					2	2	10	2		SK155					2			1				
SE76											1		SK158											1	
SE79					1								宮東遺跡												
SE80								1	2				SE1								1	2		4	
SE81										2		近世1	SE2								6	1	1	6	
SE82					2			1					SE3	1					1					2	
SE84	1				2								SE4											1	
SE85		1			2								SE5								1				
SE87										1			SE6					1			1			1	
SE93								4					SE7								1				
SE95					1						1		SE10										1		
SE98					4				2				SE11											2	
SE99					1								SE12			1									
SE101					2								SE13			1		4			17	5	3	10	
SE102								1					SE15					3						2	
SE106									1				SE16			1		1			4	1		15	
SE107								1	2		1		SE19										3		
SE111									2	2	2		SE20					1							
SE112					1								SE21					1						1	
SE118					1								SE22											1	

遺構名	青磁	白磁	古瀬戸	大窯	常滑	山茶碗系	渥美	内耳土器	瓦質土器	焙烙	かわらけ	その他	遺構名	青磁	白磁	古瀬戸	大窯	常滑	山茶碗系	渥美	内耳土器	瓦質土器	焙烙	かわらけ	その他
SE24					1				3				SD47			4									近世1
SE26					1								SD48					1				1	3		
SE28	1				1				1				SD50			2	2	1			1		2		大窯2 近世5 近代3
SE52										1	1		SD73			1							3	5	瓦2 近世81
SE59									1				SD75											2	瓦2 近世3 近代1
SE61					1					4	1		SD82			2							5	2	近世18
SE64					1			3	3		1		SD85											2	近世2
SE66										2			SD86										2		
SE68									2				SD88										1		
SE69										3			SD21				3								
SE70				2	2			2			1		SD90											1	近世7 近代1
SE71			1							2			SD94								2				
SE74	1												SD27				7							2	
SE78								2	1		3		SK11											1	
SE80									1	1		瀬戸美濃系陶器1	SK13											2	瓦1
SE81			1					1			4		SK15								1				
SE84			1						1				SK17								4			3	
SE86								1			3		SK18											1	
SE91										1			SK20									1		2	
SE94			1										SK21											6	近世1
SE95				1				2			1		SK23											2	瓦1
SE97			1							4			SK27				1						1		
SE18													SK28										1	1	
SE19										3			SK30									1		2	
SE101			3					1	8		1		SK32								1			2	
SE107			5						1	6	1		SK33								1				
SE108								1					SK38									2		1	瓦1
SE111									1				SK41											9	
SE116											1	瓦2 近世18 近代2	SK42											7	
SE118			1	1							3	大窯1 瓦1 近世1 近代1	SK50											1	
SE119								1				近世5	SK51				1				2				
SD1			1						1	1		瓦25 近世23 近代5	SK86								1	1		2	
SD2			1							1		瓦10 近世10	SK87			1									
SD12								4	1	5	1	近世1	SK89										2	1	
SD13								4		1		近世1	SK102			1									
SD14								3		1	1		SK103											2	
SD16				1	1			4	1	1	2	大窯1	SK106				1								
SD15	3	1	3	2	4			15	8	5	27	瓦3	SK109									1			
SD17				1	1			1	1			近世1	SK122			1									
SD18					1			3	1		1	瓦6 近世2 近代5	SK139										4		
SD19					1			2			1		SK142								1		1	2	
SD24											2		SK143										2	8	
SD25								3					SK144										3		
SD26			5		1			7	2	15	15	瓦2 近世5	SK145											1	
SD29								2			3		SK149		1										
SD37			1					2					SK150			1									
SD42			1		1					3			SK151										1		
SD43			2						1	3		近世2	SK165									1			
SD45			2						1	4			SK163											2	
SD46			3		10			9	17	5	1	瓦2 近世4	SK4			1								11	

引用文献

鐘方正樹 2003『井戸の考古学』ものが語る歴史シリーズ⑧ 同成社

埼玉県埋蔵文化財調査事業団編 2014『長竹遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第413集

埼玉県埋蔵文化財調査事業団編 2018『米の宮遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第439集

埼玉県埋蔵文化財調査事業団編 2018『東畑遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第449集

埼玉県埋蔵文化財調査事業団編 2019『旧利根川堤防跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第450集

太宰府市教育委員会編 2000『太宰府条坊跡XⅤ－陶磁器分類編－』太宰府市の文化財第49集

永井久美男 1996『日本出土銭総覧1996年度版』兵庫県埋蔵銭調査会

写真図版



1 宮西遺跡遠景（東から）



2 宮西遺跡調査区全景



1 宮西 1 次調査区全景（西から）



3 宮西 3 次調査区全景（北西から）



2 宮西 4 次調査区全景



4 宮西 4 次調査区全景（東から）



5 西より井戸群



8 第 4 号井戸跡



11 第 7 号井戸跡



6 第 2 号井戸跡



9 第 5・8・9 号井戸跡



12 第 9 号井戸跡



7 第 3 号井戸跡



10 第 6 号井戸跡



13 第 10 号井戸跡



1 第 11 号井戸跡



7 第 19 号井戸跡



13 第 25 号井戸跡遺物出土状況



2 第 13 号井戸跡



8 第 19 号井戸跡集石出土状況



14 第 26 号井戸跡



3 第 14 号井戸跡



9 第 21 号井戸跡



15 第 27 号井戸跡



4 第 15・16・20 号井戸跡



10 第 22 号井戸跡



16 第 28 号井戸跡



5 第 15 号井戸跡



11 第 24 号井戸跡



17 第 29 号井戸跡遺物出土状況



6 第 18 号井戸跡



12 第 25 号井戸跡



18 第 30 号井戸跡



1 第 30(A・B) 号井戸跡



7 第 38 号井戸跡



13 第 46 号井戸跡



2 第 33 号井戸跡



8 第 40 号井戸跡



14 第 47 号井戸跡



3 第 34 号井戸跡



9 第 41 号井戸跡



15 第 49 号井戸跡



4 第 35 号井戸跡



10 第 43 号井戸跡



16 第 50 号井戸跡



5 第 36 号井戸跡



11 第 44 号井戸跡



17 第 51 号井戸跡



6 第 37 号井戸跡



12 第 41・45・60・62 号井戸跡



18 第 52 号井戸跡



1 第 53・54・57 号井戸跡



7 第 65 号井戸跡



13 第 74 号井戸跡遺物出土状況(1)



2 第 56 号井戸跡



8 第 66 号井戸跡



14 第 74 号井戸跡遺物出土状況(2)



3 第 58 号井戸跡



9 第 67 号井戸跡



15 第 75 号井戸跡



4 第 59・61 号井戸跡



10 第 71 号井戸跡



16 第 77 号井戸跡



5 第 63 号井戸跡



11 第 72 号井戸跡



17 第 80 号井戸跡遺物出土状況



6 第 64 号井戸跡



12 第 73 号井戸跡



18 第 80 号井戸跡



1 第 82 号井戸跡



7 第 98 号井戸跡



13 第 117 号井戸跡



2 第 85 号井戸跡遺物出土状況



8 第 103 号井戸跡 (1)



14 第 118 号井戸跡



3 第 88 号井戸跡



9 第 103 号井戸跡 (2)



15 第 119 号井戸跡



4 第 89 号井戸跡



10 第 104 号井戸跡



16 第 119 号井戸跡遺物出土状況



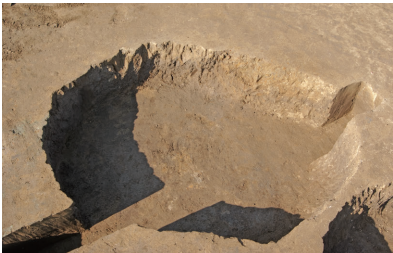
5 第 90 号井戸跡



11 第 106 号井戸跡



17 第 122 号井戸跡遺物出土状況



6 第 96 号井戸跡



12 第 116 号井戸跡



18 第 123 号井戸跡



1 第125号井戸跡



7 第133号井戸跡



13 第139号井戸跡



2 第126号井戸跡遺物出土状況(1)



8 第134号井戸跡



14 第140号井戸跡



3 第126号井戸跡遺物出土状況(2)



9 第135号井戸跡



15 第141号井戸跡



4 第127号井戸跡



10 第136号井戸跡



16 第142号井戸跡断面



5 第130号井戸跡



11 第137号井戸跡



17 第143号井戸跡



6 第132号井戸跡



12 第138号井戸跡



18 第145号井戸跡



1 第 146 号井戸跡



7 第 156 号井戸跡



13 第 43 号溝跡



2 第 148 号井戸跡



8 第 24・32 号溝跡



14 第 44 号溝跡



3 第 150 号井戸跡



9 第 26・28 号溝跡



15 第 47 号溝跡



4 第 151・152 号井戸跡



10 第 33 号溝跡



16 第 51 号溝跡



5 第 154 号井戸跡



11 第 38 号溝跡



17 第 51 号溝跡遺物出土状況



6 第 155 号井戸跡遺物出土状況



12 第 40 号溝跡遺物出土状況



18 第 52 号溝跡



1 第7・25・26号土壇



7 第19・20・27・28号土壇



13 第34号土壇



2 第10号土壇



8 第22号土壇



14 第39号土壇



3 第11号土壇



9 第23・24号土壇



15 第40号土壇(1)



4 第12号土壇



10 第201号土壇



16 第53号土壇



5 第13号土壇



11 第29号土壇



17 第55号土壇



6 第16号土壇



12 第31号土壇



18 第57号土壇



1 第 59 号土坑



7 第 135 号土坑



13 第 148 号土坑断面



2 第 121 号土坑



8 第 135 号土坑遺物出土状況



14 第 152・153 号土坑



3 第 127 号土坑



9 第 138 号土坑



15 第 154 号土坑



4 第 128 号土坑



10 第 138 号土坑遺物出土状況



16 第 155 号土坑



5 第 131 号土坑



11 第 140 号土坑遺物出土状況



17 第 156 号土坑



6 第 133 号土坑



12 第 141・143 号土坑



18 第 158 号土坑



1 宮東遺跡遠景（西から）



2 宮東遺跡調査区全景



1 宮東 1 次調査区西側（東側から）



5 宮東 1 次調査区東側（西側から）



2 宮東 1 次調査区西側（北側から）



6 宮東 1 次調査区東側（東側から）



3 宮東 1 次調査区中央（西側から）



7 宮東 5 次調査区全景（西側から）



4 宮東 1 次調査区中央（東側から）



8 宮東 5 次調査区全景（東側から）



1 第3・4号杭列



7 第3号井戸跡



13 第12号井戸跡



2 第5号杭列



8 第3号井戸跡遺物出土状況



14 第13号井戸跡



3 第1号井戸跡



9 第4号井戸跡



15 第14号井戸跡



4 第1号井戸跡遺物出土状況



10 第6号井戸跡



16 第16号井戸跡



5 第2号井戸跡



11 第8号井戸跡



17 第17号井戸跡



6 第2号井戸跡遺物出土状況



12 第11号井戸跡



18 第19号井戸跡



1 第 20 号井戸跡



7 第 29 号井戸跡



13 第 37 号井戸跡



2 第 21 号井戸跡



8 第 30 号井戸跡



14 第 38 号井戸跡



3 第 24 号井戸跡



9 第 32 号井戸跡



15 第 39 号井戸跡



4 第 26 号井戸跡



10 第 34 号井戸跡



16 第 40 号井戸跡



5 第 27 号井戸跡



11 第 35 号井戸跡



17 第 40 号井戸跡遺物出土状況



6 第 28 号井戸跡



12 第 36 号井戸跡



18 第 41 号井戸跡



1 第42号井戸跡



7 第50号井戸跡



13 第57号井戸跡



2 第42号井戸跡遺物出土状況



8 第51号井戸跡



14 第57号井戸跡遺物出土状況



3 第44号井戸跡



9 第52号井戸跡



15 第59号井戸跡



4 第46号井戸跡



10 第54号井戸跡



16 第60号井戸跡



5 第48号井戸跡



11 第55号井戸跡



17 第61号井戸跡



6 第49号井戸跡



12 第56号井戸跡



18 第63号井戸跡



1 第 64 号井戸跡



7 第 69 号井戸跡



13 第 80 号井戸跡



2 第 64 号井戸跡遺物出土状況



8 第 71 号井戸跡



14 第 83 号井戸跡



3 第 66 号井戸跡



9 第 72 号井戸跡



15 第 84 号井戸跡遺物出土状況(1)



4 第 67 号井戸跡



10 第 73 号井戸跡



16 第 84 号井戸跡遺物出土状況(2)



5 第 68 号井戸跡



11 第 74 号井戸跡遺物出土状況



17 第 86 号井戸跡



6 第 68 号井戸跡遺物出土状況



12 第 76・78 号井戸跡



18 第 87 号井戸跡



1 第 88 号井戸跡



7 第 96 号井戸跡遺物出土状況



13 第 107 号井戸跡



2 第 90 号井戸跡



8 第 97 号井戸跡



14 第 107 号井戸跡遺物出土状況 (1)



3 第 91 号井戸跡



9 第 97 号井戸跡遺物出土状況



15 第 107 号井戸跡遺物出土状況 (2)



4 第 94 号井戸跡



10 第 101 号井戸跡



16 第 108 号井戸跡



5 第 95 号井戸跡遺物出土状況 (1)



11 第 101 号井戸跡遺物出土状況



17 第 110 号井戸跡



6 第 95 号井戸跡遺物出土状況 (2)



12 第 105 号井戸跡



18 第 111 号井戸跡



1 第116号井戸跡遺物出土状況



7 第125号井戸跡



13 第15号溝跡



2 第118号井戸跡



8 第126号井戸跡



14 第15号溝跡遺物出土状況



3 第122号井戸跡遺物出土状況(1)



9 第1号溝跡遺物出土状況



15 第46号溝跡



4 第122号井戸跡遺物出土状況(2)



10 第1号溝跡(杭列1~3)



16 第47号溝跡遺物出土状況



5 第123号井戸跡遺物出土状況



11 第1号溝跡(杭列1~4)



17 第70号溝跡



6 第124号井戸跡



12 第1号溝跡遺物出土状況



18 第70号溝跡遺物出土状況



1 第 15 号溝跡



7 第 335 号溝跡



13 第 432 号溝跡



2 第 73・74 号溝跡遺物出土状況



8 第 336・337 号溝跡



14 第 469 号溝跡



3 第 77 号溝跡遺物出土状況



9 第 413・417・418 号溝跡



15 第 584 号溝跡



4 第 329～331 号溝跡 (1)



10 第 414 号溝跡



16 第 32 号土壇



5 第 329～331 号溝跡 (2)



11 第 415 号溝跡



17 第 32 号土壇遺物出土状況



6 第 332～331・339～341 号溝跡



12 第 416 号溝跡



18 第 32 号土壇



1 第 107 号土坑



7 第 163 号土坑遺物出土状況 (2)



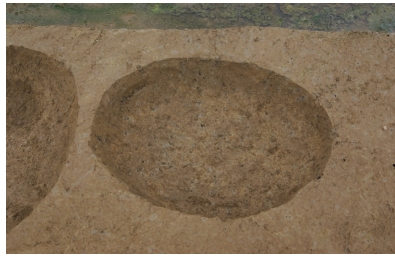
13 第 202 号土坑



2 第 118 号土坑



8 第 169 号土坑



14 第 360 号土坑



3 第 119 号土坑



9 第 192 号土坑遺物出土状況



15 第 366 号土坑



4 第 125 号土坑



10 第 357 号土坑



16 第 372 号土坑



5 第 126 号土坑



11 第 358 号土坑



17 第 375 号土坑



6 第 163 号土坑遺物出土状況 (1)



12 第 359 号土坑



18 第 377 号土坑



1 第 378 号土坑



7 第 389 号土坑



13 第 402・408 号土坑



2 第 380 号土坑



8 第 393 号土坑



14 第 409 号土坑



3 第 385 号土坑



9 第 396 号土坑



15 第 415 号土坑



4 第 386 号土坑



10 第 397 号土坑



16 第 417 号土坑



5 第 387 号土坑



11 第 399・400・410 号土坑



17 第 418 号土坑



6 第 388 号土坑



12 第 401 号土坑



18 第 447 号土坑



1 第1号墓跡遺物出土状況 (1)



7 第3号墓跡遺物出土状況 (2)



13 第4号墓跡遺物出土状況 (2)



2 第1号墓跡遺物出土状況 (2)



8 第3号墓跡遺物出土状況 (3)



14 第1号墓跡 畝1~12.22~45



3 第2号墓跡遺物出土状況 (1)



9 第3号墓跡遺物出土状況 (4)



15 第1号墓跡 畝1~45



4 第2号墓跡遺物出土状況 (2)



10 第3号墓跡遺物出土状況 (5)



16 第1号墓跡 畝13~21



5 第3号墓跡



11 第4号墓跡



17 第2号墓跡 畝1~4



6 第3号墓跡遺物出土状況 (1)



12 第4号墓跡遺物出土状況 (1)



18 第17号墓跡 畝1~2



1 第39号井戸跡 (第39図42)



6 第60号井戸跡 (第42図83)



11 第126号井戸跡 (第46図127)



2 第60号井戸跡 (第42図79)



7 第60号井戸跡 (第42図84)



12 第126号井戸跡 (第46図130)



3 第60号井戸跡 (第42図80)



8 第76号井戸跡 (第44図111)



13 第128号井戸跡 (第46図132)



4 第60号井戸跡 (第42図81)



9 第126号井戸跡 (第46図125)



14 第149号井戸跡 (第47図139)



5 第60号井戸跡 (第42図82)



10 第126号井戸跡 (第46図126)



15 第152号井戸跡 (第48図140)



1 第44号溝跡(第78図27)



6 第135号土壙(第92図22)



10 第1号性格不明遺構(第95図5)



2 第44号溝跡(第78図29)



7 第135号土壙(第92図23)



11 第1号性格不明遺構(第95図14)



3 第44号溝跡(第78図31)



8 第135号土壙(第92図24)



12 第1号性格不明遺構(第96図26)



4 第121号土壙(第92図16)



12 第1号性格不明遺構(第96図26)



5 第121号土壙(第92図17)



9 第135号土壙(第93図26)



13 第1号性格不明遺構(第96図29)



1 第1号井戸跡 (第129図1)



5 第16号井戸跡 (第131図36)



10 第38号井戸跡 (第133図69)



2 第1号井戸跡 (第129図2)



6 第16号井戸跡 (第131図38)



11 第40号井戸跡 (第133図77)



3 第2号井戸跡 (第129図5)



7 第16号井戸跡 (第131図39)



11 第40号井戸跡 (第133図77)



4 第2号井戸跡 (第129図7)



8 第16号井戸跡 (第131図40)



12 第43号井戸跡 (第134図80)



4 第2号井戸跡 (第129図7)



9 第16号井戸跡 (第131図42)



13 第50号井戸跡 (第134図85)



1 第101号井戸跡 (第137図135)



2 第107号井戸跡 (第138図139)



3 第107号井戸跡 (第138図140)



4 第117号井戸跡 (第138図150)



5 第122号井戸跡 (第139図163)



6 第124号井戸跡 (第140図166)



7 第122号井戸跡 (第139図164)



8 第15号溝跡 (第174図13)



1 第15号溝跡 (第175図24)



6 第18号溝跡 (第175図32)



10 第46号溝跡 (第176図49)



2 第15号溝跡 (第175図25)



7 第29号溝跡 (第175図34)



11 第47号溝跡 (第177図64)



3 第15号溝跡 (第175図26)



4 第18号溝跡 (第175図30)



12 第47号溝跡 (第177図66)



4 第18号溝跡 (第175図30)



8 第42号溝跡 (第176図39)



13 第52号溝跡 (第178図80)



5 第18号溝跡 (第175図31)



9 第45号溝跡 (第176図43)



13 第52号溝跡 (第178図80)



1 第 52 号溝跡 (第 178 図 81)



2 第 69 号溝跡 (第 178 図 85)



3 第 69 号溝跡 (第 178 図 87)



4 第 69 号溝跡 (第 178 図 92)



5 第 70 号溝跡 (第 178 図 100)



6 第 73 号溝跡 (第 178 図 102)



7 第 73 号溝跡 (第 178 図 103)



8 第 73 号溝跡 (第 178 図 105)



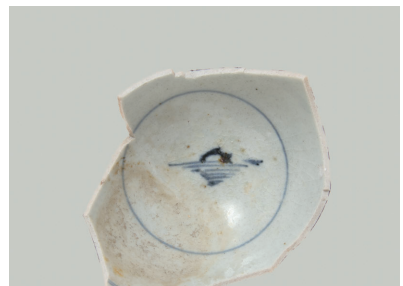
9 第 73 号溝跡 (第 179 図 111)



10 第 74 号溝跡 (第 179 図 113)



11 第 74 号溝跡 (第 179 図 114)



12 第 74 号溝跡 (第 179 図 115)



1 第74号溝跡 (第179図 116)



4 第74号溝跡 (第179図 118)



7 第74号溝跡 (第180図 120)



2 第74号溝跡 (第179図 117)



5 第74号溝跡 (第179図 119)



8 第74号溝跡 (第180図 127)



3 第74号溝跡 (第180図 125)



6 第74号溝跡 (第180図 126)



8 第74号溝跡 (第180図 127)



1 第74号溝跡 (第180図121)



4 第74号溝跡 (第180図131)



9 第77号溝跡 (第182図145)



5 第74号溝跡 (第180図132)



10 第77号溝跡 (第182図146)



2 第74号溝跡 (第180図122)



6 第74号溝跡 (第184図134)



11 第109号土壌 (第199図16)



7 第74号溝跡 (第180図137)



12 第163号土壌 (第200図25)



3 第74号溝跡 (第180図130)



8 第74号溝跡 (第181図142)



13 第202号土壌 (第200図30)



1 第74号井戸跡 (第53図 180)



2 第80号井戸跡 (第55図 182)



3 第80号井戸跡 (第56図 183)



4 第25号井戸跡 (第57図 184)



5 第25号井戸跡 (第57図 185) 表



6 第25号井戸跡 (第57図 185) 裏



1 宮西第 80 号井戸跡 (第 54 図 181)



2 宮東第 42 号井戸跡 (第 143 図 198)



3 宮東第 64 号井戸跡 (第 144 図 199)



4 宮東第 40 号井戸跡 (第 142 図 193)



5 宮東第 64 号井戸跡 (第 142 図 195)



6 宮東第 68 号井戸跡 (第 145 図 200)



1 宮東第1号溝跡 (第184図153)



3 宮東第15号溝跡 (第184図156)



4 宮東第15号溝跡 (第184図157)



2 宮東第15号溝跡 (第184図155)



6 宮東第118号井戸跡 (第147図209)



5 宮東第40号井戸跡 (第148図210)



7 宮東第15号溝跡 (第185図158)

図版 34

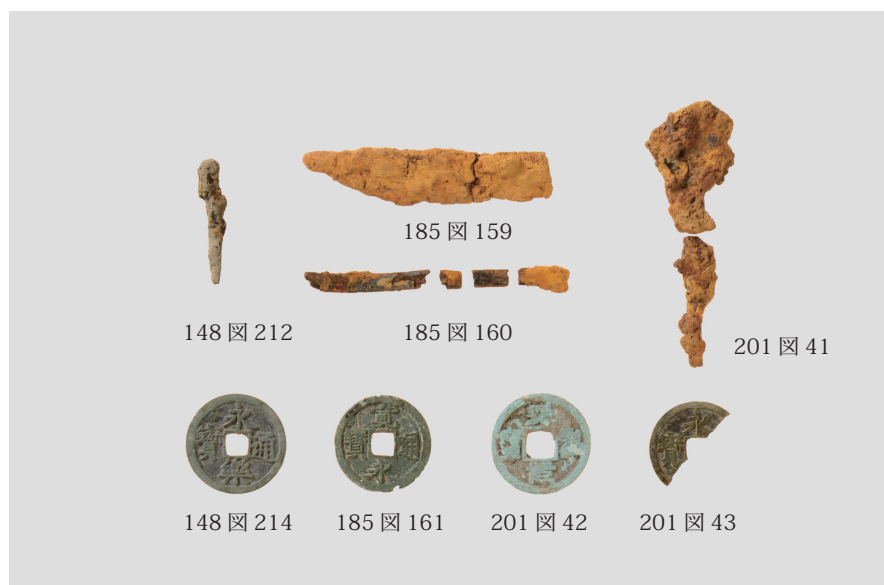
1 宮西石製品



2 宮東石製品



3 宮東金属製品



報 告 書 抄 録

ふ り が な	みやにし みやひがし							
書 名	宮西Ⅱ／宮東Ⅱ							
副 書 名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シ リ ーズ 名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第 475 集							
編 著 者 名	砂生智江							
編 集 機 関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所 在 地	〒 369-0108 埼玉県熊谷市船木台 4 丁目 4 番地 1 TEL 0493-39-3955							
発 行 年 月 日	西暦 2022（令和 4 年）年 3 月 22 日							
ふ り が な 所 収 遺 跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 ’ ”	東経 。 ’ ”	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みやにし いせき 宮 西 遺 跡 (第 1・2 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 2057-1 他	112101	69-040	36° 10′ 58″	139° 37′ 21″	20111101 ~ 20120331 20120406 ~ 20120531	2,500	堤防強化 記録保存
みやにし いせき 宮 西 遺 跡 (第 3 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 2066-1 他	112101	69-040	36° 10′ 57″	139° 37′ 23″	20131001 ~ 20140228	2,268.46	堤防強化 記録保存
みやにし いせき 宮 西 遺 跡 (第 4 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 しもでらまち 下寺町 2059 他	112101	69-040	36° 10′ 58″	139° 37′ 19″	20141001 ~ 20141231	2,370	堤防強化 記録保存
みやひがし いせき 宮 東 遺 跡 (第 1 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 はたけだ 畑ヶ田 2555-1	112101	69-042	36° 10′ 54″	139° 37′ 29″	20120406 ~ 20130331	4,342.56	堤防強化 記録保存
みやひがし いせき 宮 東 遺 跡 (第 2 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 2555-1 他	112101	69-042	36° 10′ 54″	139° 37′ 29″	20130401 ~ 20130930	4,342.56	堤防強化 記録保存
みやひがし いせき 宮 東 遺 跡 (第 3 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 2539-1 他	112101	69-042	36° 10′ 53″	139° 37′ 33″	20140203 ~ 20140331	882	堤防強化 記録保存
みやひがし いせき 宮 東 遺 跡 (第 4 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 はたけだ 畠田 2538-1	112101	69-042	36° 10′ 52″	139° 37′ 35″	20140401 ~ 20150331	5,228	堤防強化 記録保存
みやひがし いせき 宮 東 遺 跡 (第 5 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 かわいり 川冨 2686-4	112101	69-042	36° 10′ 50″	139° 37′ 39″	20150401 ~ 20160331	5,864	堤防強化 記録保存
みやひがし いせき 宮 東 遺 跡 (第 6 次)	さいたまけんか ぞ しおおごえ 埼玉県加須市大越 川冨 2686-4	112101	69-042	36° 10′ 50″	139° 37′ 39″	20160401 ~ 20160731	2,814	堤防強化 記録保存

所 収 遺 跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮 西 遺 跡 (第 1 ～ 4 次)	集落跡	中・近世	井戸跡 150基 溝跡 49条 土壇 90基 性格不明遺構 1 基 ピット 175基	陶磁器、かわらけ、瓦質 土器、土製品、砥石、石 製品、鉄製品	中世の井戸跡群が検出された。 井戸跡より、板碑が出土した。
宮 東 遺 跡 (第 1 ～ 6 次)	集落跡	中・近世	杭列 3 条 井戸跡 106基 溝跡 73条 土壇 175基 墓跡 4 基 畠跡 3 箇所 ピット 292基	陶磁器、かわらけ、瓦 質土器、土製品、砥石、 石製品、鉄製品	中世の井戸跡群が検出された。 井戸跡より、板碑が出土した。 土壇より土製のさいころが出 土した。
要 約	宮西・宮東遺跡は、加須市大越に隣り合って立地する。両遺跡からは、井戸跡が多量に検出された点が注目される。 宮西遺跡では、井戸跡は近接し一部で重複しており、限られた範囲に井戸跡の掘削を繰り返した様子がうかがわれる。本遺跡の地盤は軟弱であったことから井戸跡は崩れやすかったものと想定され、使用不能になった井戸は埋め戻し、新たな井戸を掘削することで対応していたものと考えられる。宮東遺跡からも同様に多量の井戸跡が検出されているが、宮西遺跡と比較すると重複は少ない。いずれの遺跡の井戸跡からも、中世から近世にかけての遺物が出土している。一部の井戸跡からは、埋め戻しの際に投棄されたとみられる、板碑や石臼が出土した。このような状況から、両遺跡の調査区は大部分が生活域であったことがうかがわれる。 また、宮東遺跡からは、調査区に散在する 4 基の墓跡が検出された。このうち 3 基は土葬墓である。遺跡の西側には、旧利根川堤防跡が立地し、15世紀から16世紀後半にかけての土葬墓が数多く見つまっている。本遺跡の土葬墓は出土遺物が少なく時期の特定は困難であったが、関連がうかがわれる。				

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第475集

宮西Ⅱ／宮東Ⅱ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493 (39) 3955

<https://www.saimaibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社